

見聞録

AHEC 2009

— The 10th Asian Hydrogen Energy Conference —

堂免 一成

東京大学大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

第10回アジア水素エネルギー会議が2009年4月8日(水)～10日(金)に韓国で開かれました。会場は大邱のDaegu Exhibition & Convention Center (EXCO)で、期間中同会場で開催されていたGreen Energy EXPOのイベントの一つとして行われました。オーガナイザーは、Korean Hydrogen and New Energy Society (KHNES)、HESS および China Association for Hydrogen Energy (CAHE) であり、コオーガナイザーとして、Hydrogen Energy R&D Center (HERC)が加わっていました。Chairmenは、KHNESのJong-Won Kim会長、HESSの岡崎健会長、CAHEのZong Qiang Mao会長の3人でした。8日はかなりフォーマルな歓迎レセプション、10日午後はPOSCO POWERへのテクニカル・ツアー(これには私は参加しませんでしたので状況は良くわかりません。)で、アカデミック・プログラムは9日と10日の午前中の1日半でした。参加者は約200名(韓国側主催者発表; 実際感じはそれよりもやや少なめ)でした。台湾、タイ、米国、カナダからも参加していました。発表は、Plenaryが3件(CHAEのMao会長、KAISTのHuen Lee教授と私)、Keynoteが8件(日本からは、横浜国大・谷生教授、エネ総研・坂田氏、JARI・三石氏)、Invitedが3件、口頭発表が49件(日本から5件)、ポスター発表は76件でした。口頭発表は3会場に分かれて行われましたが、会場がやや狭く日本人の講演を含め発表によっては立ち見が出るような場面もありました。ポスター発表は立食形式のディナーと並行して行われたため、ややもすれば食事と社交が優先して、技術的なディスカッションがややおろそかになりがちであったように思われます(もちろん真面目にディスカッションをしている方々もおられたとは思いますが)。韓国のKim会長にお聞きしたところでは、韓国の水素関連の国からの研究費はやや減少傾向だが、おおむね一

定とのことでした。中国に関してはMao会長の講演を聞く限りでは、かなり積極的に研究開発を推進しているように感じられました。

1日目の歓迎レセプションでは、3人の若い女性グループの演奏があり、大いに楽しませてもらいました。また2日目の夜は、バスをチャーターして夜の大邱市内の観光をさせていただきました。特に山の上のタワーから見た景色はなかなかのものでした。ただ、酒はほとんどでませんでしたので、ホテルに帰ってから、日本人グループで連れ立って一緒に近くの居酒屋で飲み直しました。この点はどの学会でも変わらぬいつもの光景でした。



Plenary session の会場風景



ウェルカムパーティーの様子